

G1 平成 23 年度活動報告

金谷麻理子, 松田裕雄

【1】研究目的 (課題)

本研究グループ (以下, G1) は筑波大学体育センター (以下, 体育センター) の教育活動を中心に, これまでの「大学体育」を総括するとともに現状を把握することを目的として, 以下の 3 段階で研究活動を推進している。(図 1 参照) なお, 今年度は 2) と 3) に取り組んだ。

1) 基盤研究

「大学体育」を運営する組織の教育事業を可視化するための基本的枠組みを規定する。

2) 評価・検証研究

体育センターが展開してきた教育事業をさまざまな観点から評価・検証していく。

3) 新規提案・挑戦研究

現代および今後の社会に貢献しうる人材育成のための「大学体育」について, および体育センターにおける教育活動のあり方について研究し, 提案する。また, これからの体育・スポーツの本来的価値についての新たな知見を得る。

【2】構成員

○金谷麻理子, ○松田裕雄, 河村レイ子, 風間八宏, 河合季信, 川村 卓, 吹田真士, 門野洋介, 武田丈太郎, 桐生習作

【3】活動報告

(1) 会議

今年度は定例として計 10 回の会議を開催した (表 1 参照)。ここでは, 研究課題 2) と 3) に関連して, 主に次の 4 つの議題について審議

した。

①筑波大学の卒業生および体育センター教員に対する共通科目「体育」に関するアンケート調査

②大学体育のルーツに関する調査

③海外の大学生に対する体育およびスポーツの価値に関するアンケート調査

④教養教育を重視する教育機関における体育およびスポーツ活動の現状に関する実地調査

なお, 昨年度同様すべての会議において, 前回会議の議事要旨の確認および予算の執行状況の報告, スケジュール確認が行われた。また, 上記の他に各調査担当者が必要に応じて数多くの打ち合わせが行われた。

(2) 調査活動

今年度は, 主に研究段階 3) に関連して, 以下に示す 2 つの調査を実施した。

①海外の大学生に対する体育およびスポーツの価値に関する調査

大学における体育およびスポーツの価値について, 海外の現役大学生を対象としてアンケート調査を実施した。なお, 質問項目は, 調査対象者が体育やスポーツに対してどのような価値観を有しているのか, また実際どのような活動を行っているかなどについてであり, 昨年度に実施した米国カリフォルニア州周辺地域における調査を参考に設定した。また, 調査対象はサンプル数を確保するために筑波大学と交流実績のある大学を中心に選定し, Web を用いて実施した。現在はアジア諸国を中心に調査中である。

②米国ボーディングスクールにおける体育およ

表1 全体ミーティングと主なテーマ

第1回(4月6日):	平成22年度総括, 平成23年度活動計画, 各調査の進捗状況の報告①(卒業生に対するアンケート調査の論文, 米国視察の報告書, 海外の学生に対するアンケート調査およびボーディングスクール視察の概要)
第2回(5月11日):	各調査の進捗状況の報告②(海外の学生に対するアンケート調査の計画, ボーディングスクールの概要と視察計画)
第3回(6月1日):	各調査の進捗状況の報告③(卒業生に対するアンケート調査の論文, 大学体育のルーツに関する論文, 海外の学生に対するアンケート調査の方法と質問項目等, ボーディングスクール視察の計画)
第4回(7月4日):	各調査の進捗状況の報告④(卒業生に対するアンケート調査の論文, 大学体育のルーツに関する論文, 海外の学生に対するアンケート調査の方法と質問項目等, ボーディングスクール視察の計画)
第5回(9月5日):	各調査の進捗状況の報告⑤(卒業生に対するアンケート調査の論文, 大学体育のルーツに関する論文, 海外の学生に対するアンケート調査のプレ調査と本調査の方法)
第6回(1月5日):	コア会議の報告, 各調査の進捗状況の報告⑥(大学体育のルーツに関する論文, 海外の学生に対するアンケート調査の本調査の方法, ボーディングスクール視察の計画), 平成23年度SPERT報告会の発表方法の検討
第7回(11月2日):	各調査の進捗状況の報告⑦(大学体育のルーツに関する論文の投稿報告, 海外の学生に対するアンケート調査の実施, ボーディングスクール視察の計画)
第8回(12月7日):	コア会議の報告, 各調査の進捗状況の報告⑧(卒業生に対するアンケート調査の論文, ボーディングスクール視察の計画)
第9回(1月11日):	各調査の進捗状況の報告⑨(ボーディングスクール視察の日程および訪問先等)
第10回(2月8日):	各調査の進捗状況の報告⑩(卒業生に対するアンケート調査の論文, 大学体育のルーツに関する論文, 海外の学生に対するアンケート調査の中間報告, ボーディングスクール視察での調査内容), 平成23年度SPERT報告会の発表内容の検討

びスポーツ活動の現状に関する調査
 教養教育を重視する教育機関としてボーディングスクールに着目し, 2012年2月13日から19日まで米国マサチューセッツ州及びコネチカット州にて実施した。

a. 主な訪問先

- ・ Berkshire
- ・ Suffield Academy
- ・ The Taft School
- ・ Choate Rosemary Hall
- ・ The Loomis Chaffee
- ・ The Hotchkiss School
- ・ Deerfield Academy
- ・ Northfield Mount Hermon

b. 実施した調査

- ・ アンケート調査

訪問先における教員および生徒を対象に質問用紙を配布し実施した。

・ ヒアリング調査

訪問先における教員および生徒を対象に口頭で実施した。

※なお本調査における成果報告は別冊にて行う。

(3) 研究成果の発表

下記の概要で研究成果の発表を行った。

1) 投稿論文

- ・ 大学体育の価値向上に向けた一考察－教育実践における目標・教授・学習に着目して－(全国体育連合発行『大学体育学』へ。査読終了。原著論文。)
- ・ 筑波大学における共通科目「体育」の教育効果に関する研究－卒業生を対象としたアンケート調査より－(仮題目。現在作成中。)

2) 報告書

- ・教養教育における体育およびスポーツの教育的価値に関する調査報告－米国ボーディングスクールに着目して－（別冊作成中。）

【4】 今後の展望

「現状把握」を目的としたこれまでの G1 研究活動は以下のように分類される。

- 1) 基盤研究及び評価検証研究: 体育センターの教育変遷に関する実証研究
 - ・教育概念基本構造を用いた大綱化前後の相違点について
 - ・教育効果に関する調査（卒業生アンケート）
 - ・教育実践に関する調査（教員アンケート）

2) 国内及び海外における実態調査研究: これまでの大学体育の理念と意義に関する研究

- ・大学体育発祥の理念と背景
- ・大学体育の意義変遷
- ・海外における大学体育の実態及びスポーツの価値

3) 新規提案・挑戦研究: 新しい大学体育への提言及び指針提示

- ・上記2つのバックボーン及び一般労働市場の動向を抑えたうえでの人材育成のあり方について提言できる取り組みを考案していく。

こうしたこれまでの経緯を踏まえ、次年度のアクションプランを本年度内に整理していく必要がある。

以上

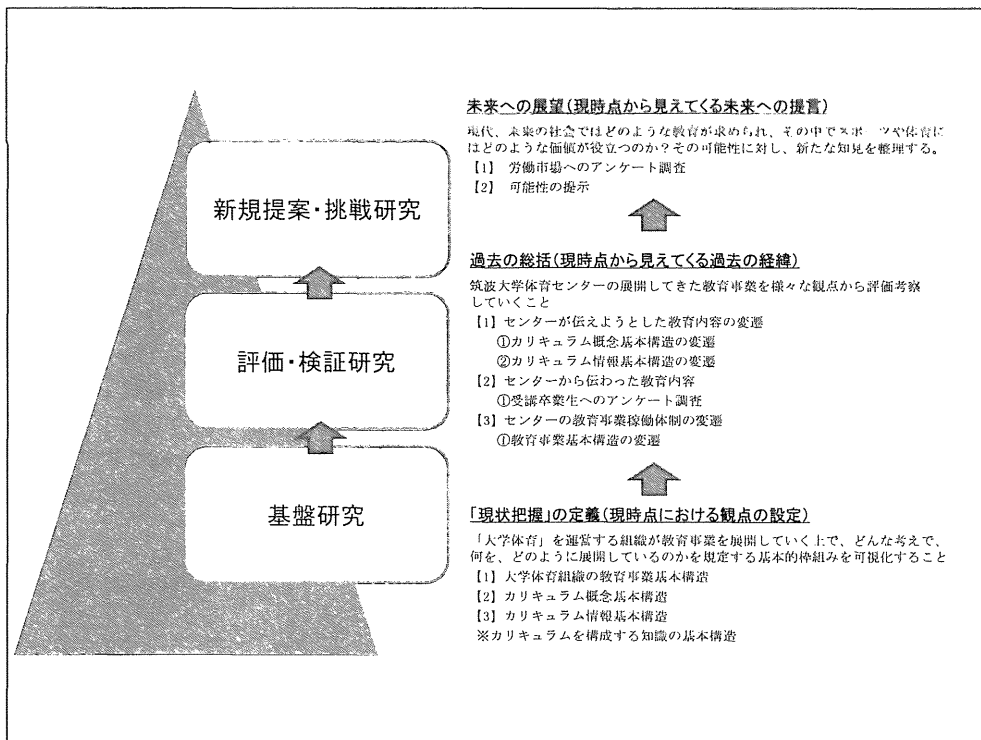


図 1 研究概要